

問1 石器時代の道具や生活の変化について述べた文として、縄文時代の特徴を正しく説明しているものはどれですか。（2018年 徳島公立

入試 類似）

1. 氷河期が終わり温暖な気候になる中で、石をみがいた磨製石器や土器が使われ始めた。
2. マンモスなどの大型の獣を追うため、移動生活に適した打製石器のみを使い続けた。
3. 青銅器や鉄器が大陸から伝わり、石器は次第に祭祀用の道具へと変化していった。
4. 本格的な水田稲作が広まったことで、石包丁を用いた穂首刈りが一般的になった。

問2 青森県にある三内丸山遺跡をはじめ、日本各地の縄文時代の遺跡から見つかる「土偶」について、その製作背景や当時の生活の様子を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 香川公立入試 類似）

1. 縄文土器が作られ、狩猟や採集による定住生活が行われる中で、食物の豊作や多産を祈るために作られた。
2. 本格的な稲作が広まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や金属器が普及する中で、魔除けとして作られた。
3. 王や豪族といった有力者が現れ、巨大な前方後円墳が築かれた際に、死者を弔うために作られた。
4. 大陸から伝わった仏教の教えが広まり、寺院の本尊として拝むために精巧に作られた。

問3 縄文時代の遺跡において、海岸や水辺に近い集落付近で見つかる、食べた後の貝殻や魚の骨、破損した土器などが堆積した場所を何といいますか。当時の人々の「ゴミ捨て場」としての性格を持ち、生活の痕跡（生活跡）を現代に伝えるものを選びなさい。（2024年 大分県公立入試 類似）

1. 貝塚
2. 古墳
3. 環濠集落
4. 高床倉庫

問4 北海道にはその土地の自然環境や地形に由来する地名が多く残されています。例えば、世界自然遺産にも登録されている「知床（しれとこ）」という地名は、ある先住民族の言葉で「大地の先」を意味する「シリエトク」という言葉に由来しています。この独自の言語や文化を持ち、北海道や千島列島などに古くから住んでいる民族の名称を答えなさい。（2024年 山形公立入試 類似）

1. アイヌ民族
2. 琉球民族
3. 渡来人
4. 蝦夷（えみし）

問5 約1万年前に氷期が終わり、日本列島の周辺環境が変化した際の様子について説明した文として、適切なものを選択してください。（2019年 千葉県公立入試 類似）

1. 気候が温暖になり、海面が上昇したことで日本列島は現在の姿に近づいた
2. 気候が寒冷になり、海面が下降したことで日本列島はユーラシア大陸と陸続きになった
3. 大規模な地殻変動が起こり、日本列島は大陸から切り離されて島国となった
4. 気候が温暖になり、海面が下降したことで沿岸部に広大な平野が形成された

問6 縄文時代の遺跡から数多く出土する、主に女性をかたどったとされる土製の像を何と呼びますか。自然の豊かな実りや、病気・けがの回復を願うまじないの儀式に使われたと考えられているものを選びなさい。（2023年 徳島公立入試 類似）

1. 土偶
2. 埴輪
3. 石包丁
4. 銅鐸

問7 2019年に制定された「アイヌ施策推進法」では、アイヌの人々の誇りが尊重される社会の実現を目指しています。アイヌ民族が日本の先住民族であることを認め、その独自の伝統や文化を維持・振興することで実現しようとしている、多様な背景を持つ人々が共に暮らす社会のあり方を何と呼びますか。（2026年 埼玉公立入試 類似）

1. 多文化共生社会
2. 高度情報化社会
3. 持続可能な社会
4. 中央集権社会

問8 縄文時代の人々が、食物の豊作や子孫の繁栄、あるいは病気や怪我の治癒などを願うための信仰として用いた、女性をかたどった土製の像を何と呼びますか。（2023年 香川公立入試 類似）

1. 土偶
2. 埴輪
3. 銅鐸
4. 石包丁

問9 縄文時代の遺跡からは、女性をかたどったとされる土偶など、当時の精神文化を反映した遺物が多く発見されています。これらの遺物が作られた目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。（2024年 熊本県公立入試 類似）

1. 稲作が普及し、収穫した米を保存するためのまじないとして作られた
2. 大陸との交易において、有力者が自分の富や権力を誇示するために作られた
3. 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさや安産などを祈るために作られた
4. 身分の高い人物が亡くなった際、その墓である古墳に副葬品として納めるために作られた

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 氷河期が終わり温暖な気候になる中で、石をみがいた磨製石器や土器が使われ始めた。	約1万年前に氷河期が終わり気候が温暖になると、日本の植林や動物の生態が変化し、人々は定住生活を営むようになりました。この時期に登場したのが、より精巧な磨製石器や、食料の調理・保存に欠かせない土器です。打製石器は旧石器時代から継続して使われましたが、磨製石器の普及は縄文時代の大きな技術的特徴です。
問2	<b>答え 1</b> 縄文土器が作られ、狩猟や採集による定住生活が行われる中で、食物の豊作や多産を祈るために作られた。	青森県の三内丸山遺跡は、縄文時代の大規模な集落跡として知られており、当時の生活を裏付ける多くの土器や土偶が出土しています。縄文時代の人々は、弓矢を用いた狩猟や木の実などの採集、漁労によって生活を営んでいました。土偶はこのような自然環境に依存した生活の中で、自然の恵みを祈り、豊かな収穫を願う信仰（呪術）の対象として重要な役割を果たしていました。
問3	<b>答え 1</b> 貝塚	縄文時代の人々が日常生活で出た不要物を捨てた場所です。単なるゴミ捨て場としての機能だけでなく、食べ残された骨や貝殻から、当時の人々がどのような動植物を食べていたか、あるいは当時の気候や海岸線の位置がどこにあったかを知るための貴重な史料となります。
問4	<b>答え 1</b> アイヌ民族	北海道や樺太、千島列島などの先住民族であるアイヌの人々は、自然界のあらゆるものに魂が宿ると考える独自の文化を育んできました。彼らの言語であるアイヌ語は、北海道の多くの地名の語源となっており、「知床」が「シリエトク（大地の突き出た先）」に由来するほか、札幌や小樽などもアイヌ語に漢字を当てはめた地名として知られています。
問5	<b>答え 1</b> 気候が温暖になり、海面が上昇したことで日本列島は現在の姿に近づいた	約1万年前に氷期が終わり、地球全体の気候が温暖化しました。その結果、大陸の氷河が溶けて海面が上昇し、それまでユーラシア大陸と地続きだった部分が海に沈んだことで、日本列島は現在の島国の姿になりました。この環境の変化が縄文時代の始まりに大きく寄与しています。
問6	<b>答え 1</b> 土偶	縄文時代には、自然の恵みを祈ったり、病気やけがの回復を願ったりする儀式が行われていました。その際に使われたのが土偶であり、その多くが女性の姿を模していることから、生命の誕生や収穫への祈りが込められていたと推測されています。これに対し、埴輪は古墳時代の古墳の周囲に並べられたものであり、時代が異なります。
問7	<b>答え 1</b> 多文化共生社会	アイヌ民族は長年、同化政策などによって独自の文化を制限されてきた歴史があります。しかし現在では、そのアイデンティティを尊重し、異なる文化を持つ人々が互いに理解を深めながら対等な関係で共に生きていく「多文化共生社会」の実現が、人権保障や民主主義の観点から重要な目標とされています。
問8	<b>答え 1</b> 土偶	縄文時代の人々は、自然界のあらゆるものに靈魂が宿ると考えるアニミズムを信じていました。この時代に作られた土製の人形は、多くの場合、乳房や腹部が強調された女性の姿をしており、新しい生命の誕生や自然の再生、そして食物の豊作を願う呪術的な道具として使われたと考えられています。古墳時代に作られ、古墳の周囲に並べられた埴輪とは、時代も目的も異なる点に注意が必要です。
問9	<b>答え 3</b> 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさや安産などを祈るために作られた	縄文時代は、狩りや漁、採集による生活であり、自然の状況に食料確保が左右されました。そのため、土偶などの遺物は、子孫繁栄や獲物の増加、病気の回復といった切実な願いを込めた呪術的な道具として用いられたと考えられています。